創世ホール通信No.332

催し案内＋文化ジャーナル
2023年８月１日発行■北島町立図書館・創世ホール
電話：088-698-1100　ファクシミリ：088-698-1180
〒771-0207　徳島県板野郡北島町新喜来字南古田91

めだかとふれあう「おはなしのへや」

日時▼8月4日(金)　14時～15時
会場▼2階ギャラリー　　参加無料
内容▼絵本のよみきかせ、ブックトーク、めだかすくい
※めだかすくい希望者多数の時は、お待ちいただいたり譲り合っていただくようお願いする場合があります。　ご理解・ご協力お願いします。

いろんな読書を体験しよう 読書バリアフリーってなんだろう？

日時▼8月9日（水）14時～16時（時間内出入り自由）
会場▼2階ハイビジョンシアター　　入場料▼無料
内容▼点字で自分のお名前シールを作ったり、パソコンを使って点訳体験したり、音の出るデイジーという本にも触って使ってみることができる！
講師▼点訳の会UZU、県視聴覚障がい者支援センター

※体験先着20名までに、リーディグトラッカーを差し上げます。

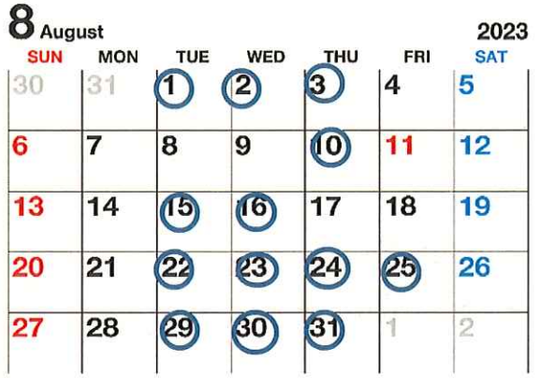
夏休みビデオ上映会 ～映画すみっコぐらし とびだす絵本とひみつのコ～

かわいくて大人気！すみっコぐらしの映画DVDを上映。

日時▼8月18日（金）14時～（上映時間66分）
会場▼2階ハイビジョンシアター
入場料▼無料　　※申し込みはいりません。

Ｒ５夏休み自習スペースの貸出

※8月は下記カレンダーの〇印の日に貸出します。



利用時間：１０：００～１７：００
場所：２階ハイビジョン室
座席数：20 席

※１人２時間ごとの入れ替え制です。
自習したい時間に図書館カウンターへ申込。
電話申込・事前予約・座席指定はできません。
※終了予定時刻に待っている人がいなければ、２時間の延長が可能です。終了予定時刻に、１階カウンターへお申し出ください。
※自習スペースへ入場を希望される方は、必ず図書館カウンターで受付をしてください。
※ルール、マナーを守ってご利用ください。ルールを守れない方の利用はお断りする場合があります。

なつかしのへや

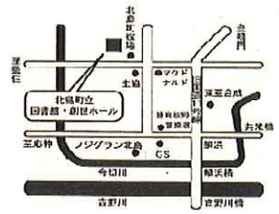
※6月に大雨のため、中止となってしまった「なつかしのへや」。９月に開催できることになりました！

日時▼9月29日(金) 14時～(13時30分開場)
会場▼2階ハイビジョンシアター　入場無料
対象▼どなたでも
内容▼懐かしい写真を紹介、昭和を振り返る紙芝居他

■なつかしい昭和を振り返る大人のためのおはなし会を３年ぶりに開催。北島町内朗読ボランティア「もくせい会」のみなさんに紙芝居など上演していただく予定です。

※創世ホールに来場される方へ※

▼3月13日から入場される方の、マスクの着用は個人の判断に委ねることとなりました。
▼令和5年5月8日からは座席数制限を解除し、貸しホールイベントについては主催団体等の判断に委ねるものとしています。
■なお、今後の感染症拡大状況に応じて、対応を変更することがあります。ご迷惑をおかけしまして恐れ入りますが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。



文◎化◎ジ◎ャ◎ー◎ナ◎ル

故郷・沖縄における金城哲夫さん顕彰の実践①

南風原(はえばる)町観光協会・元事務局長＝藤原政勝さんに聞く

収録◎2022年５月16日◎はえばる観光案内所★聞き手＝小西昌幸

小西●今日は藤原政勝さんにお話を伺いたいと考えております。ここは、金城哲夫さんがお生まれになった南風原（はえばる）町内にある《はえばる観光案内所》です。私は、沖縄に来ております。実は2010年代のいつだったか、「沖縄の南風原（はえばる）町観光協会・事務局長の藤原政勝でございます」と、北島町立図書館・創世ホールの事務室にお電話をいただいたことがありました。それが、私が藤原さんとお話しした最初です。

ちょうど、北島町立図書館・創世ホールでは2011年２月27日に池田憲章さんを講師に「脚本家・金城哲夫～特撮とドラマを初めて融合させた人」という講演会をしました。この催しは全国的な注目を集めたんですけれども、私は、その講演会の詳細なテープおこしをしまして、「創世ホール通信」裏面の「文化ジャーナル」で全８回にわたって連載をしました（2011年３月号から2012年１月号まで）。

「文化ジャーナル」の内容は、印刷物のほか、北島町のホームページで読めるようになっているんですけれども、その池田さんの講演記録を、こちらの南風原町観光協会では、北島町のＨＰからプリントアウトしてですね、勉強会に使っております、というご報告を藤原さんからいただきました。私はそのとき、それこそ、椅子から転げ落ちそうになるほどビックリしました。（笑い）お役に立てたことがとても誇らしく、光栄な気持ちでした。

しかも、その時に藤原さんからお教えいただいたのが、なんとご自身のご出身が徳島県のつるぎ町（旧貞光町）であるということで、大変不思議なご縁を感じました。それ以来、藤原さんのことが心に刻み込まれたのですが、私はてっきり藤原さんが貞光町の役場かどこかのご出身で、人事交流か何かで南風原町に来た経験があり、それで沖縄のことが好きになって移住なさったのかなあ、と勝手に思い込んでおりました。世代的にも私の同年代の人ではないかなどと、これも勝手に思い込んでいたわけです。（笑い）あとで、全然そうではない、また大変ご苦労されたご経歴をお持ちであるという事が分かり、反省しました。よく言われることですが、地域おこしをするときの人材で重要な要素がいくつかあるのだと。若者、よそ者、バカ者とそういう人が地域おこしの牽引者になるケースが、往々にしてあり、成功事例にはそういうパターンが多いと言われていることを思い出しました。今日は、私たちはひんぱんに沖縄に来ることが出来ませんので、藤原さんのお話を記録したいと思いました。これから藤原さんに、色々根掘り葉掘りお伺いすることになるかと思いますが、答えたくないとか、不都合に感じることがありましたら、無視するなり、お答えいただかなくてかまいませんのでよろしくお願いいたします。まず、藤原さん、生年月日と満年齢をお教えください。

藤原★私はね、昭和15年（1940年）10月30日生まれです。満年齢でいうと、81歳ですね。

小西●南風原町観光協会の事務局長は、70代半ば頃までされていたわけですか。

藤原★そうですね。

小西●お生まれは、徳島県貞光町のどのあたりだったのですか？

藤原★貞光町のマチです。

小西●徳島を出られたのは、就職か何かがきっかけですか？

藤原★私が20代の前半に自分で自動車関係の商売をやっていたんですが、色々事情があってそれに失敗しましてね、行き詰まって。……ま、色々事情があるんですけどね、徳島を後にしたわけです。

小西●かなりご苦労されたようですね。学校を出られて自動車整備関係のお仕事をされるようになったわけですか。

藤原★私はねえ、片親でして。父親が養子に来ておりまして、舅との折り合いがよくなくて、入籍しないまま実家に帰り、そこに召集令状が来て戦争に行きました。ですから父親は私が生まれたことを知らないままだと思います。実は私は学校も中学校しか出ていないわけです。

小西●おつらいご事情を伺いました。たいへん重たいお話しで、つらいことを思いだすことになってしまい、申し訳ございません。では、ご兄弟は？

藤原★結局違う父親（継父）の子である弟（異父弟）が二人おります。その違う父親も結局、別れて、母親は母子家庭で女手一つで３人の子どもを育てることになりました。

小西●お母様もご苦労されたのですね。そういうご事情があるから、少しでもお母様や家計を助けるために早く社会に出ようということになりますね。

藤原★長男ですから、上の学校に行きたいと思っても、そうもならず私は町の自動車整備工場に入りました。職を手につけるという形ですね。昔はよく言われていましたからね。

小西●おつらいことをお話しいただき、申し訳ありませんでした。自動車整備の関係のお仕事は、性に合った感じでしたか？

藤原★そうですね。厳しいオヤジさんでしたが、結構楽しく……。私は父親がおりませんから、そこで教育されたという感じですね。

小西●工場の親父さんが父親代わりであったと。

藤原★今現在の沖縄のことも、その人のおかげでしょうね。お酒の飲み方から教えられました。

小西●当時のお仕事での肩書きは「自動車整備士」みたいな感じですか。

藤原★そうですね。もともとは、そこは鉄工所だったんですよ。時代の波で、自動車整備工場に変わっていった。

小西●その会社の場所は？

藤原★貞光町内ですね。親父さんは陸軍士官学校出身でしたから厳しかったです。

小西●エンジンの構造やら、車をジャッキで持ち上げるときの注意すべき点など、基礎をいっぱい叩き込まれたのでしょうねえ。

藤原★そうですね。その人は、教えてくれる前に、「自分で考えろ」というタイプの人でした。あと印象に残っているのは、日常生活でもよくお酒を飲みますね、すると、たまたまお酒飲みすぎて二日酔いで仕事に行けないという事がありますよね。そうすると物凄く怒るんですね。お酒を飲んでも絶対に仕事は休んではだめだ、と。ですからお酒を飲む時には自分が危ないなと思えば、抑えて付き合いをしろと。ある時私も二日酔いで、でも休んだら叱られると思って出勤したら、今日は出て来たか、じゃあ、後ろの部屋で寝とけ、と。

小西●温かい配慮もして下さる方なんですね。従業員は何人ぐらいおられましたか？

藤原★従業員は３人ぐらいですね。小さな町工場、零細企業ですね。

小西●そういう小さなところですと、人間関係がとても大切になりますね。

藤原★朝は、だいたい７時に工場を開けるんですね。そして夜は11時ぐらいまで。

小西●それはご自宅から通われたわけですか。

藤原★通いましたね。たくさんの参考書がない時代、整備基準書というのがあってね。あるときにたまたま先輩が辞めたときに整備基準書をポンと渡されて、これをみて組み立てろと。ただし仕事が終わってからやりなさいと。照明は使ってもよいと言われました。一週間ぐらいかけて組み立てました、エンジンがかかった時は嬉しかったですね。しかし朝、同級生が学生服で通学していると、私は汚れた仕事着でおりますから恥ずかしかったですねえ。

小西●まだ少年なわけですからね。

藤原★それで隠れていたら、親父さんから「なんで隠れるのか。恥ずかしいのか」と。「はい」と答えると、「お前な、あの子たちが３年たって卒業する頃には、お前は整備士の資格を取って、一人前になっているんですよ」、「彼らが学校でいる間、お前はここで勉強しているんだよ、」と、言われましたね。おかげで３年目には整備士の資格が取れました。実務をやることが大事なのだと教えられた気がしますね。

小西●とても良いお話を聞かせていただきました。ありがとうございます。一般にですね、一流企業でも自治体の職員でも学歴だけは優秀でも、現場では使い物にならない人材はいるんですね、これが。人格形成ができてなかったり、注意されたらすぐ泣きだす人とか。とにかく藤原さんが地に足を着けて活動されてきて、ご苦労されたのだなあということがよく分かりました。（次号に続く）

金城哲夫きんじょう・てつお（1938－1976）■沖縄県島尻郡南風原（はえばる）町出身■1938（昭和13）年７月５日生まれ。脚本家。1961年、玉川大学文学部教育学科卒業■中学卒業後、1954年東京の玉川学園高等部に進学。同学園教諭で脚本家の上原輝男は恩師。上原の紹介で円谷英二を知る。脚本を関沢新一に師事。また脚本家の上原正三は生涯の親友■1961年大学卒業後、62年、沖縄で映画「吉屋チルー物語」を自主製作（脚本監督、63年完成）。ＴＢＳのドラマ脚本を数本書く■63年４月、㈱円谷特技プロダクション発足に文芸企画室長として参加、以後同プロ特撮番組の企画と脚本に関わる■メイン・ライターを務めた「ウルトラＱ」（66）、「ウルトラマン」（66～67）、「ウルトラセブン」（67～68）は爆発的人気を呼び、50年以上経た今日もその評価は不動である■その他「快獣ブースカ」「怪奇大作戦」「マイティジャック」等にも関わる■69年、円谷プロを退社。妻子と共に沖縄に帰郷。動機は故郷の本土復帰を見届けたいという強い思いからだった。以後、故郷でラジオやテレビのキャスター、沖縄芝居の脚本執筆と演出、沖縄海洋博の式典演出・広報等、幅広く活躍■一方、敬愛する円谷英二（70年没、享年68）、その長男円谷一（73年没、享年41）の相次ぐ訃報に憔悴する。また「沖縄と本土の架け橋になりたい」という気持ちが、壁に突き当たることも多々あり、焦燥を深める。その結果、アルコールに依存してゆく■1976年２月23日泥酔状態で、自宅離れの二階仕事場に入ろうとして転落、脳挫傷のため２月26日死去、永眠。享年37■仕事部屋は現在《金城哲夫資料館》として親族が管理、その偉業を偲ぶ訪問者は、今も後を絶たない。